

## 基準Ⅰ 環境・体制整備

記入者 JC蔵本 管理者 篠原里奈

### 1-1 利用定員が発達障害の指導訓練室等スペースの関係で適切であるか

(1) 1-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動スペースを確保することができていると感じる

### 1-2 発達障害に関して専門的知見を持った職員の配置及び配置数は適切であるか

(1) 1-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

配置数はほぼ満たしているが、利用児の参加が多く人員配置がギリギリになることも多くあった。職員の専門的な知識やスキルについては差があるため、今後も研鑽を積む必要があると感じている。

### 1-3 事業所の設備等において、発達障害への配慮が適切になされているか

(1) 1-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

視覚支援や構造化は行なった上で特性に応じて配慮を行なっている。また支援が過剰になりすぎないようにお子さんによって支援ポイントを分け、常に支援体制を見直すように取り組んでいる。

### 1-4 発達障害に配慮した環境調整が行なわれているか

(1) 1-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

個別やクールダウンが必要なお子さんが複数居る場合は環境調整が出来ない場合もあるが、基本的にはその場で出来る環境調整は出来る限り行なっている。

【基準Ⅰの自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準2 業務改善

2-1 業務改善を図るためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している

(1) 2-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

ミーティングや振り返りは、出勤者は全員参加するようにしている。お子さんにトラブルや課題が生じた際にはその都度、ケース会議を行い支援方法について見直しているが情報共有に職員間にムラは出てきてしまっている。

2-2 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか

(1) 2-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

コミュニケーションを取っている保護者さんからのご意見やご要望は聞き、実践していたが密にコミュニケーションが取れていない保護者さんもいらっしゃる。

2-3「厚労省ガイドライン」による自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか

(1) 2-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

ホームページ上に掲載しており、保護者にもお知らせしている。

2-4 職員の資質の向上を行うために、発達障害に関する研修の機会を確保しているか

(1) 2-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

施設内の内部職員研修や外部の機会は設け参加している。全員が同じ研修に参加するのは難しい場合は、後に伝達する形で実施しているが、職員間でのスキルの差は出ているのが現状である。

【基準2の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準3 適切な支援の提供

3-1 発達障害のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事業所でのアセスメントを全体評価・進路別評価など複数行っている。医療機関を受診しているお子さんは連携を行ない保護者の同意を得た上で心理検査の結果を頂き、活動や個別支援計画に反映できるよう努めている。

3-2 子どもの状態を把握するために、発達障害のアセスメントツールなどを使用しているか

(1) 3-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

Vineland-II 適応行動尺度やWISC-IIなどのアセスメントツールや、事業所独自の就労スキルについてのアセスメントを行っているが利用児全員には実施できていない現状がある。

3-3 発達障害の活動プログラムの立案をチームで行っているか

(1) 3-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動内容はお子さんや保護者のニーズと共に、職員間で話し合っ決定しているが、職員によっての差がある。

3-4 発達障害の活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか

(1) 3-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

毎年実施するものと、その時々のお子さんの状況を見て活動内容が固定化しないよう気を付けている。

今年はプロジェクト活動を通じて、外部の人と接する機会を増やしている。

3-5 平日、休日、長期休暇に応じて、発達障害の課題をきめ細やかに設定して支援しているか

(1) 3-5の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

平日、休日、長期休暇のみならず、個に応じた支援と関わりが出来るよう活動をそれぞれのお子さんに合わせて課題や教材を設定しているが、ご利用児さん全員には行き届いていない現状もある。

3-6 子どもの発達障害の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-6 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

お子さんの状況や保護者のニーズを含め判断している。またお子さんと個別面談を実施できるよう定期的に機会を設けているが、来所頻度が低いお子さんとは実施できていない。

3-7 発達障害の支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか

(1) 3-7の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

打ち合わせはミーティングの際に話し合い、利用児にとっての課題や関わり方の方向性の統一を行っているが、職員間での差がある。

3-8 発達障害の支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをするなど、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などの情報を共有しているか、又はその工夫がなされているか

(1) 3-8 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

退勤時間が遅いため終了時に振り返りを行なうことは難しい現状。出勤後すぐに話し合いの時間が取れるように努めており、限られた時間内で効率良く実施できるよう目指している。

3-9 日々の発達障害児の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげているか

(1) 3-9 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動内でも班行動を基本とし、担当についての職員が記録を取るよう役割分担を行い、休みの前に記録を記入するようにしている。

3-10 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービスの計画の見直しの必要性を判断しているか

(1) 3-10 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

計画内容については保護者さんに家庭の様子や学校での様子・本人には困り感の聴取を行ない計画に反映するよう努めている。

3-11 「厚労省ガイドライン」の総則の「基本活動」(1(3)②ア・イ・ウ・エ・)を複数組み合わせで支援を行っているか

(1) 3-11 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

基本活動で挙げられている内容を実施できるよう年間計画を立て、立案している。

【基準3の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準4 関係機関や保護者との連携

4-1 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの発達障害の状況に精通した最もふさわしい者が参画できるようになっているか

(1) 4-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者と担当グループリーダーが出席するようにしている。

電話でのモニタリングについては児童発達支援管理責任者や担当グループリーダーが行ってい

4-2 保護者が許容している場合において、学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか

(1) 4-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

連携の取り方は学校や保護さんの希望によって様々ではあるが、適宜連携を行ない同じベクトルを向いて支援が進むよう役割分担を行っており、連携を取った場合には保護者さんに情報共有を行っている。

4-3 医療的対応が必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか

(1) 4-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

主治医と連携を取っているケースは少数だが、医療機関への訪問なども行っている。

4-4 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか

(1) 4-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

利用児童が中高生であるため幼児期に関わっていた機関との連携はない。その他の関係機関とは連携を取るようになっている。

4-5 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの発達障害の支援内容等の情報を提供するなどしているか、又はその態勢ができているか

(1) 4-5の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

必要な場合は保護者の同意を得た上で次に移行する福祉事業所の見学を通じて連携を取らせて頂いている。

4-6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか

(1) 4-6 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

利用児童が中高生であるため児童発達支援センターとの連携はないが、発達障害者センターや精神保健福祉センター・児童相談所とは個別ケースの連携を取るなど行っている。また徳島県内での研修会には参加するようにしている。

4-7 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会を設けることができるか

(1) 4-7の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

オンラインを用いて、全国の障害のない中高生と一緒に活動する機会を設けていた。（マイプロジェクト活動にエントリーするなど）

4-8（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか

(1) 4-8 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

地域自立支援協議会には参加できていない。

4-9 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか

(1) 4-9 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動送迎時またはメールや電話にて情報共有と共通理解が持てるよう努めている。保護者と話す頻度をもう少し増やしていくのが来年度の課題である。

4-10 保護者の発達障害への対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング（P34・P42・P47参照）等の支援を行なっているか

(1) 4-10 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

保護者会や個別相談の場を通じて先輩保護者さんや大学卒業生（当事者）など、一つ上のステージにいる方から話を聞く機会を設けて、見通しが持てるよう努めている。

【基準4の自己評価と改善・向上方法（将来計画）】

## 基準6 非常時等の対応

6-1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか

(1) 6-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

職員内での周知、マニュアルについては施設内に掲示してきている。

保護者の方への周知はしているが、見て頂けていないことも多いため周知の頻度を増やしていきたいと考えている。

6-2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか

(1) 6-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

年に複数回、お子さん方を含め実施したり、職員のみで研修など実施している。

6-3 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか

(1) 6-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

虐待ヒヤリハットとなる事例は、早い段階で関係機関と情報共有を行ない、複数の支援者で見守れるような体制を整えている。事業所内には虐待に関するポスター掲示を行っている。また個別サポートⅡの加算にて兇相と連携しているケースも何件かある。

6-4 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか

(1) 6-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

必要があるケースは現在いないが、別紙の同意書を作成しており、了解を得る体制は整えている。

6-5 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか

(1) 6-5の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

アレルギー症状が重度のお子さんは現在いないが、調理や食べ物を扱う場合は考慮し活動を提供している。

6-6 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか

(1) 6-6の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

ヒヤリハット事例を多く出し、事故を未然に防げるよう努めている。

【基準6の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】